

会 議 録

会 議 名	平成28年度第1回山陽小野田市子ども・子育て協議会
開催日時	平成28年8月29日(月) 18時30分～20時40分
開催場所	山陽小野田市役所3階 第2委員会室
出席者 (敬称略)	伊藤一統(会長)、吉田由美子(副会長)、岩元良勝、加藤善成、古豊和恵、河口拓也、森本由美、福永香代、長田貴代美、平野強、宇野洋平、塩田賢二、瀧原千春 (13名)
欠席者 (敬称略)	磯村政治、石井次哉、有馬大雄、城戸邦之、池本慎吾、森本隆介、秋本和美 (7名)
事務担当課 及び職員	健康福祉部こども福祉課 河合久雄(健康福祉部長)、川崎浩美(こども福祉課長)、大濱史久(こども福祉課課長補佐)、河野静恵(健康増進課課長補佐)、別府隆行(こども福祉課主査兼子育て支援係長)、山田寿実子(こども福祉課保育係長)、野田記代(こども福祉課保育係主任)
会議次第	1 開会 2 議事 (1)山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について (2)子育て総合支援センターについて 3 その他 4 閉会
配布資料	資料1(山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の主な事業の実施状況について) 資料2(子育て総合支援センターについて) 資料3(その他)
傍聴者	なし
議事要旨	1 山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について (1)「教育・保育提供体制の充実」について、資料1の1ページから2ページに沿って事務局から説明 【主な質疑】 (委員) 計画と実績との差について、「2号認定・3歳以上保育必要」の確保方策の実績値が、計画値を113人上回ったのは、定員の変更によるものか、他の理由によるものか。 (事務局) 計画値は定員の合計であるが、定員を超えて保育を実施した園があったため、計画値を上回る実績値となった。

(委員)

年度当初ゼロだった待機児童が、12月の時点では43名となっている。今後の方向性で示された方策が待機児童の解消につながると考えて良いか。

(事務局)

2か所の小規模保育事業所の認可が待機児童の解消につながると考えている。

平成28年度は、年度当初時点でも現時点でも待機児童はゼロであるが、それが年度末まで続くかどうかは今の時点では分からない。

(委員)

保育所への入所が点数で決まるようになり、兄弟で同じ保育所に入れないケースがあると聞いた。そのような際の配慮はないのか。

(事務局)

兄弟の一方が既に入所している場合は加点が付き優先順位は高くなるが、定員との兼ね合いもあり同一施設への入所がかなわないこともある。

(委員)

各種の統計は5月頃に実施されることが多く、本市の場合、その時点での待機児童はゼロである。しかし、保育所は途中入所もあり、1年を通して待機児童をゼロにするというのは難しい。保育協会の意見はどうか。

(委員)

子どもが増えるのは歓迎すべきことだが、そうになると保育所に入れない児童が発生する。本市でも、兄弟で別々の保育所に入所という事例が現実的に起きている。

公平公正の判断基準をどこに置くのが難しい。提供量が充足するという事は、施設に空きが出ることであり、難しいところである。

(委員)

5月の時点で待機児童がゼロでも、その職員配置でその後の児童増加に対応できるとは限らない。保育士を養成していると、年度途中での保育士の要請が多いが、対応に苦慮している。待機児童をどの時点で捉えるか、大変難しい問題である。

(2) 「地域子ども・子育て支援事業の充実」について、資料1の3ページから5ページに沿って事務局から説明

【主な質疑】

(委員)

各項目の達成状況の標記について、計画値と実績値との比較による評価は意味がないのではないかと。毎年の利用者数は増減があつて当然であり、利用希望がかなつた方と希望がかなわなかつた方の割合が重要と思うがどうか。

(事務局)

実績値の算出や評価方法には苦慮するところであるが、達成・未達成の表現については御指摘のとおりである。本事業計画の評価は今回が初めてなので、今後より分かりやすい評価の手法を検討したい。

(委員)

数値化による評価が求められがちであるが、実際にはそれはとても難しい。現場では、数値で測れない評価も必要と感じる。

(3) 「地域子ども・子育て支援事業の充実」について、資料1の6ページから11ページに沿つて事務局から説明

【主な質疑】

(委員)

保育所での一時預かり事業について、利用希望がかなわなかつた人数の把握はしているか。

(事務局)

していない。

(委員)

利用できなかつた方の把握が必要と思う。例えば、申し込みがあつた園から連絡をもらうなどして、人数把握に努めてはどうか。

(事務局)

できることに取り組んでいきたい。

(委員)

延長保育事業の実績値が計画値を上回っているが、保育士に負担がかかっているのではないかと。

(事務局)

影響がないわけではないが、大きな影響があるとは聞いていない。

平成27年度から短時間保育認定が始まつて、その方の延長保育が発生したため、計画を上回る実績となつたが、平成28年度以降の件数が大きく増加することはないと考えている。

(委員)

延長保育を実施している11園の公立と私立の割合はどうか。

(事務局)

11園はすべて私立である。再編後の公立保育所については、延長保育の実施を検討する。

(委員)

延長保育が増えれば保育士に負担がかかる。そのあたりも考慮して政策を考えていただきたい。

(委員)

保育士不足は全国的な課題である。

保育所に通うすべての児童が11時間の保育を利用するとすれば、現場は対応できない。一時預かりのための保育士を、日々の保育に回しているという状況もある。

子どもの最善の利益を考えた場合、保育時間の延長を繰り返して保育所を長く開ければ良いと考えて良いのかどうか・・・少しずれているように感じる。

(委員)

今は「子どもの利益」ではなく「大人の利益」で政策が進んでいるように感じる。標準時間保育は11時間であるが、一人の保育士が一人の子どもを11時間見るということは、労働基準法上ありえない。制度の矛盾を感じるところであり、折り合いをつけるのが難しい。

大人の希望をすべてかなえようとするれば、消費税率の大幅アップでもしなければ対応はできない。

子どもの最善の利益を優先して考えるべきであり、最適解を見つけるのは難しい。

病児保育について、利用希望数の把握はしているか。

(事務局)

把握していない。宇部市とも協定を結んで事業を行っており、受入ができないという話は聞いていない。

(委員)

保育所に病児保育の機能を持たせても良いと思うが、それには財源確保が必要となる。保育協会はどう考えるか。

(委員)

熱が出た子を親に迎えに来てもらって、家に連れて帰ると熱が下がっていたという話は少なくない。体調を崩した子にとって、親に抱っこしてもらおうことが、どれほど大きな意味を持つかということだと思う。

子が病気の時に、親と一緒に過ごせる社会にするのか、病児保育の受け皿を更に拡大するのか、皆で考えるべきなのではないだろうか。

(委員)

児童クラブは、月ごとに利用希望数に変動があるのは当然であり、それに柔軟に対応できる施策が必要である。待機児童が出ない方策を検討

してほしい。

(事務局)

年次的な計画を立てて整備していきたい。

(委員)

児童クラブの待機児童数が、5月をピークとして月を追うごとに減っているのはどのような理由か。

(事務局)

退所する児童が増えていくためである。特に高学年では、児童クラブに行くのを止める子や、スポーツ少年団に行き始める子などもあるようだ。

(委員)

今の事例は、児童クラブに行かなくても受け皿があることを示しているように感じる。

必然性はなくともサービスがあるから利用するというケースもあるのではないか。

やみくもにサービスを充実させるのが良いのか。本来の子育ての形をもっと考える必要があるのではないか。子の育ちに最善の施策を考えていくべきである。

2 子育て総合支援センターについて

資料2に沿って事務局から説明。

【主な質疑】

(委員)

下関市の「ふくふくこども館」はとても人気がある施設である。本市の子育て総合支援センターでは、遊具の設置を考えているか。

(事務局)

ボールプールなどを考えている。

(委員)

1年を通して、アルコールを使わない除菌の手法を検討してほしい。

土日の開館は考えているか。

また、一時預かりなどの託児ができると良いのではないか。

(事務局)

現時点では土・日も開館する予定である。

一時預かりについては、職員配置の問題もあり、当初からの実現は困難と考えている。

(委員)

この施設に機能をまとめるのではなく、各地域での事業実施も大切にしてほしい。山陽地区で実施されている事業は、この施設ができれば集約されるのか。

(事務局)

集約する予定はなく、山陽地区での実施も継続する予定である。

(委員)

ふくふく子ども館の運営費用は高額であり、そのコンセプトは「こどもが遊ぶ場所」となっている。買い物施設や映画館が隣接しているため、その間の一時預かりにも対応している。

本市の子育て総合支援センターは「相談支援のワンストップ化」を目的とした施設であり、ふくふく子ども館とはコンセプトも環境も違うことを念頭に置おいておく必要がある。

本市の施設の駐車台数はどれほどを考えているか。

(事務局)

敷地内には20台の駐車が可能。それに加えて、隣接の市有地も駐車場として利用したいと考えている。

整備予定の子育て総合支援センターは、ふくふく子ども館とはコンセプトも規模も違うが、本市に相応しい施設にしていきたい。

(委員)

エレベーターの設置は検討しているか。

(事務局)

既存施設にはエレベーターはなく、現時点で見積もっている改修費用(3,000万円)にもエレベーター設置費用は含まれていない。担当課としてエレベーターを設置したいという思いはあるが、エレベーター設置には現時点の改修費用を超える費用が必要となり、設置は困難と考えている。また、建物の構造的にエレベーターの設置が可能かどうかという問題もある。

(委員)

費用だけで片付けることがないようにしてほしい。

3 その他

(1) 公立保育所の再編について

昨年度開催した協議会で示した公立保育所の再編案(非公表)については、その後の方針変更があり、現在再編案を練り直している。方針が決まりしだい、あらためてお示ししたい。

【主な質疑】

特になし

	<p>(2) こども条例策定の要否について 資料3に沿って事務局から説明 【主な質疑】 (委員) この場では意見を出しにくい。あらためて意見を言わせていただきたい。</p> <p>(3) 子育て支援マップについて 資料3に沿って事務局から説明 【主な質疑】 特になし</p> <p>(4) さんようおのだっこについて 資料3に沿って事務局から説明 【主な質疑】 特になし</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------